

トクヤママレーシア譲渡に関する説明会 主な質疑応答

日時：2016年9月28日（水）17:00 ～ 17:20

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

1. 譲渡について

- Q1：電力や政府からのインセンティブ、ユーザーとの販売契約は譲渡後どうなりますか？
A1：いずれも基本的には OCI 社に引き継がれる方向です。販売関係は、最終的には OCI 社の経営判断に委ねられると思います。

2. 業績・財務について

- Q2：特別損失が 80 億円発生するのはなぜですか？特損が発生しても税金費用の減少で賄うということは、現状では、損益への影響はないとみてよいですか？
A2：OCI 社へ譲渡するときに、契約上トクヤママレーシア (TMSB) をデッドフリー（無借金）とする必要があります。TMSB の債務免除等により TMSB の純資産簿価が増価して 98 百万ドルの譲渡価額を上回るため、差額を特別損失で処理することになります。この譲渡に伴う特別損失は約 80 億円となる見込みですが、同時に当期の税金費用が約 80 億円減少する見込みであり、当期業績への影響は限定的とみています。

3. 今後の経営について

- Q3：今後注力される事業について具体的に教えてください。国内で製造している半導体グレードの多結晶シリコンは従来通り続けていくのでしょうか？
A3：中計でお示しした通りで、成長事業については ICT 並びにヘルスケア分野に注力していく方向性に変わりありません。それから伝統事業につきましても、徳山製造所のブラッシュアップによりまして、競争力日本一というものを目指しております。徳山製造所における多結晶シリコンにつきましても、半導体に集中して、引き続き継続して取り組んでいきます。
- Q4：売却が決まった今のお気持ちと、これからトクヤマをどう成長させて行くのかを教えてください。
A4：非常に残念な気持ちといいますか、虚しさがございます。このビジネスに投じた金額を別のビジネスでやれていれば、どうだっただろう、という気持ちも去来します。一方で、この 2011 年以降トクヤマの業績を大きく左右してきたこの TMSB について一定の区切りをつけられたと思いますので、「あらたなる創業」として中計を着実に遂行していく推進力にしていかなければならないと思っています。